



新潟市議会議員(西区選出)

子供達が誇れる
ふるさとを守り、そして創る!

ようすけ
たむら要介 市政活動
レポート
創刊号

発行人 自由民主党新潟県新潟市西区第2支部

■ ごあいさつ ■

たむら要介市政活動レポート創刊号を発行いたします。肩ひじを張らず、自分の言葉で、私の考えや議員としての活動を皆様にお伝えさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



5月より市議会議員としてスタートさせていただきました。本当に忙しい毎日ですが、お陰様で充実した日々を過ごさせていただいております。ご

声援を頂戴した方々へのご挨拶などご無礼があるかと存じますが、必ずや皆さまのお声を市政に反映させるべく精一杯頑張っておりますので、ご斟酌いただければ幸いです。

私は「まずは守り、そして創る」というスローガンを掲げて、市政に挑戦させていただきました。目の前の問題を一つずつ解決しながら、10年、20年先を見据えた新しい「まち」の形を創造していくことが大切です。

今、我々は少子高齢化、人口減少問題がもたらす様々な問題に直面しています。シャッター街、空家の増加、

人通りの減少など景気観以上に「これはまずい」と実感している方々も多くいらっしゃると思います。



急激に変化していく「まち」の状況に対し英知を結集し、力を合わせて対応すること。「おらが村」「おらが町」ばかりを言うてはいただけません。簡単ではありませんが、皆様の声をお聞きしながら、ひとつひとつ前に進んで行きたいと思っています。

私は20年以上東京で生活をしておりました。だからこそ自信を持って「新潟は暮らしやすいいい街だ」と言えるのです。

この新潟のために、汗をかける市議会議員になるべく、まずは与えていただいた4年間を全力で走っていきますので、叱咤激励、ご声援のほどよろしくお願いたします。

新潟市議会議員 **たむら要介**

5月12日より、臨時会が開催され、所属会派、委員会等が決定いたしました。

- 新潟市議会ホームページ
→ <http://www.city.niigata.lg.jp/shigikai/>
- たむら要介公式ホームページ
→ <http://y.tamura.net/>

所属会派	新市民クラブ	保守系の新市民クラブに入会させていただきました。クラブ員11名。新人3名の最大会派です。
所属委員会	文教経済常任委員会	教育委員会、文化スポーツ部、観光・国際交流部、経済部、農林水産部、区役所を所管する委員会です。
特別委員会	農業活性化調査特別委員会	持続可能な農業確立のため、農業特区、食の安全、ユネスコ創造都市に関わる調査研究を行う特別委員会です。
顧問等	新潟市私立幼稚園・認定こども園協会、新潟市造園建設業協会、まちづくり流通委員会、西地域農業振興協会、アルビレックスランニングクラブ、新川マリクラブ等にお声掛けを頂戴し、顧問としての活動も始めていただいております。	

議会報告～平成27年6月定例会

6月定例会におきまして、初めての一般質問の機会を頂戴しました。一問一答方式に取って挑戦。緊張でカミ気味でしたが、1時間という持ち時間を有効に使えたと思います。内容につきましては、私のホームページ上からもご覧いただけます。

1 公共施設の統廃合問題について

新潟市が作成中の「**財産経営推進計画**」について問題提起させていただきました。

この計画は、市が保有する公共施設を効率化、いわゆる統廃合を行っていく上での今後の指針となるものです。私は質問を通じて、施設の削減ありきではなく、個々の地域事情に配慮した上で、丁寧に、十分な理解を得た上で進捗させるべきであると、基本的な方向性を再確認させていただきました。また、市が新聞広告等で行ってきた告知内容、手法についても問題があると苦言を呈し、更なる「説明責任」を求めています。

今後の公共施設の維持修繕、建替え費用の急激な増加は確かに厳しい財政に大きな影響を及ぼします。私も全くこれが不必要だとは言いません。ただ、公共施設の過半は「学校」及び「地域を支える公の施設」であり、すなわち「公共施設を減らす」ということは、地域の存立に大きな影響を与える可能性が強いことを忘れてはいけません。

回答は私の意見に理解を示したものでしたが、実際はどうなるのか。今後の動向に注視いたします。

2 市有財産の売却、利用促進について

新潟市は多くの**市有財産**を有しています。特に土地価格の下落等で売却、利用が滞っている財産について、その**早期利用促進**を訴え、方向性を確認させていただきました。

3 市長の考える若手流出防止策と農業特区の方向性について



市長が寄稿している書籍の内容を利用し、議論を行いました。大きくは2点。まずは**人口流出、流入策**について。特に都市圏高齢者の受入について市長の考えを尋ねました。私は世にいうアクティブシニア層の受入と後期高齢者の受入問題とは全く違う問題であり、慎重にことを運ぶべきであると提言し、安易な取組みへの警鐘を鳴らしました。

また、特区を利用した「**就業機会の創出**」についても尋ねました。市長が力を入れている農業教育、就業体験も確かに必要だが、それ以上に「持続可能な農業の確立」が本市にとって重要なことであり、特区の成功には内側に向けた骨太な施策の発信、すなわち地元農家との両輪での取組みが不可欠であると言及いたしました。

4 連携中枢都市圏の方向性と目指す形について

新潟市が選定された**連携中枢都市圏**の具体的な方向性を確認しましたが、まだそれを示すまでは及んでいないとの回答。今後の動向を注視いたします。

事務所を開設しました。お気軽にお立ち寄りください。どうぞ宜しくお願いいたします。

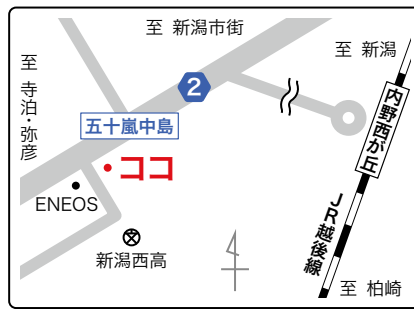
たむら要介事務所

〒950-2162 新潟市西区五十嵐中島4-23-8 五十嵐中島テナントビル103

TEL:025-378-0592

FAX:025-378-0598

事務所は新潟西高校前バス停前のテナントビル内です。ちょっと見はラーメン屋さんです。



議会報告～平成27年9月定例会

6月に引き続き、一般質問の機会を頂戴しました。2回目なので少し余裕なのかとも思いましたが、前回同様大変でした。新潟市議会のホームページ上からご覧いただけますので、是非ご覧ください。今回は、大きく5つのテーマで質問を行いました。

1 人口減少対策について

2 新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

本年10月に国に対して提出される「新潟市人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の素案をもとに質問を展開させていただきました。

昨年度、本市で生まれた子供の数は6,055人。100倍しても60万人にしかありません。

新潟市の出生率は1.29。これに社会動態を加えて人口予測をしているのですが、明らかに本市の人口減少の規模は政令指定都市の中で突出していると言わざるを得ません。

そう、日本全体を眺めても、本市、本県の置かれている状況は大変厳しい。これをまず皆で共有しなければいけません。

この問題の処方箋として作成されたのがこの素案であり、国の「地方創生戦略」に対して本市が応えた「かたち」です。

この総合戦略には「自然減対策」「社会減対策」の両面から様々な角度からの処方を施しています。その内容についても様々質問しているのですが、この紙面で書き切れませんのでHPをご覧ください。

私は、この様々な処方方は当然に必要なと思いますが、一番大切なことは、やはり、本市の現状を市民の皆さまに共有いただくこと、ご理解いただくことなのだと思います。この問題だけではありません。BRT問題も財政問題も然り。「説明責任を十分に果たすこと」これが行政にも、我々議員にも欠けている。だから処方箋が効きづらい。これを強く訴えたつもりです。



BRT問題も様々なご意見があります。私もこのままで良いとは言いません。ただ、このシステム導入には「今後、バスシステムが成り立たなくなる」という前提が存在したことも忘れてはいけません。私も「責任を果たす」ために今後も説明、改善を求め、意見いたします。

3 若者・農業関連に対するチャレンジ支援について

「フードバレーとかち」の施策を例に挙げ、特に若者を喚起させる直接的なチャレンジ支援制度を充実させるべきであると発言いたしました。「わかりやすい」支援策が大切です。

4 文化スポーツ交流の促進、都市間ネットワークについて

本市、本県は閉鎖的になりやすい地域性が強いことを前提とし、更なる都市間ネットワーク構築への積極的なアプローチ、仕掛け作りが必要であると訴えました。大きな地域間連携の構築も必要です。

5 障がい者の経済的支援策について

本定例会に「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」が上程され、可決いたしました。関係者は一様に「経済的な困窮」を一番の問題点として挙げており、このことを念頭に入れた施策、サービスの拡充を優先にと訴えました。

ホームページを開設いたしました。
ご意見の窓口もご用意しております。



→<http://y-tamura.net/> 是非ご覧ください。

公式ブログ「新潟市議会議員 たむら要介活動日誌」

→<http://blog.goo.ne.jp/yousuketamura>

公式 Facebook

→<http://www.facebook.com/tamura.yousuke.7>

プロフィール

たむら要介

昭和43年6月生まれ、47歳。

新潟市立坂井輪中学校卒業
新潟県立新潟高等学校卒業
私立青山学院大学卒業

地元の建設会社に入社、営業として街づくりに携わる
東京勤務を経て、7年前に新潟へ

平成25年、建設会社を退職、衆議院議員公設秘書に
平成27年、秘書を退職、新潟市議会議員に初当選

田舎暮らしにあこがれ、6年前に西区笠木に移住。
両親、妻、中学生、小学生の子供と3世代6人暮らし。
自由民主党新潟支部副部長。宅地建物取引士。



